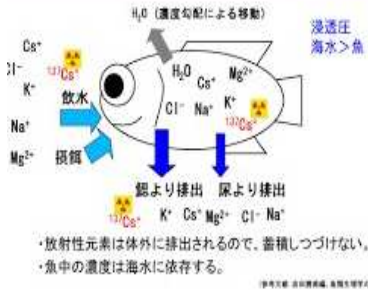


海産魚中の塩類の流れ



東日本大震災に端を発した原発事故と放射能汚染は地域水産業に大きなダメージを与えましたが、近年の調査結果では国が定める食品中の放射能物質の基準値、放射性セシウム100ベクレルを遥かに下回る結果となっているようです。事故当時は検体全体の60%近い数が基準値以上でしたが現在は0%となっています。アメリカで1200ベクレル、EUでは1250ベクレルと日本の基準は世界的に見てもかなり厳しく、安全性がかなり高いという事になります。ただ、依然として風評による被害は残っており、なかなか漁業者の士気も高まらないのが現状です。安全性の地道なアピールで需要が高まっていくことを期待します！（左図、魚は排出する大量の塩分と一緒にセシウムも排出している。）

早熟、白子持ち「超オス」フグ

子がすべて雄になり成長速度も早く、白子も発達するトラフグ「超オス」の養殖が長崎県で2019年春から始まるそうです。長崎県は国産養殖フグの生産の約6割を有する国内最大産地。画期的な商品だけに期待が集まりますがその反面、県外生産者は導入量を慎重に決めないと生産過多によるトラフグや白子の価格低下を招く可能性があるとして不安感を募らせています。



4, 5月の主な魚

入荷状況&商品情報



ホタルイカ 出足は低調でしたが現在は順調に入荷しています。

白エビ 恒例により4月1日より解禁です。（富山）高値予想。

イイダコ 県内各地より潤沢入荷。飯（卵）もしっかり入ってます。

メバル（ハチメ） 刺し網、釣りものが入荷します。型も徐々に大きくなってきます。

サヨリ 七尾方面より上質のものが入荷。（二艘引き漁）抱卵しだすと入荷は終わります。今のところ潤沢入荷。

甘エビ 4月に入ってくると、脱皮の時期を迎えます。新エビは殻が柔らかいので、品質には気を使う時期です。6月頃には回復。

地もの貝類 天然トリ貝（七尾）は資源量が少なく本年度は休漁。アズキ貝、アカニシ貝、バイ貝（左上段から時計回りにトリ貝、アズキ貝、バイ貝、アカニシ貝）

魚種	産地
★ホタルイカ	富山、兵庫、山陰
★白エビ	富山
★イイダコ	石川
★メバル(ハチメ)	石川、福井
★稚アユ	滋賀
★サヨリ	石川、九州
アマダイ	石川、福井、九州

